

# 東日本大震災復興支援

## 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 37～

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ  
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7592

平成31年3月発行

### 大規模災害公営住宅自治会交流会 ～役員の担い手不足の解決案を話し合う～

平成31年2月11日(月)、陸前高田市の県営柄ヶ沢アパート集会所で、第2回大規模災害公営住宅自治会交流会(共催:岩手大学三陸復興・地域創生推進機構、いわて連携復興センター、みやぎ連携復興センター)が開催されました。

昨年に続き、2回目の開催となった今年は、山田町・大槌町・大船渡市・陸前高田市の5か所と宮城県の3か所の100戸以上の災害公営住宅から自治会役員、支援者、行政関係者など、約90名が集まりました。

岩手大学 船戸義和 特任助教が全体進行、いわて連携復興センター、陸前高田まちづくり協働センター及び本会が各グループの進行役となり、どの災害公営住宅でも課題となっている「役員の担い手不足」をテーマに、各自治会の取組や具体的な解決案について話し合いました。



#### 主な意見や解決案

- ◆ 収入超過や再建によって若い世代が出て行ってしまう。入居要件の緩和をしてほしい。
- ◆ 誰でも参加できる楽しくて簡単なイベントを開催し、若い人や子育て世代にも自治会に関心を持ってもらう。
- ◆ 役員の負担を減らすため、行事を実行委員会方式で開催する。
- ◆ 団地内のコミュニケーションづくりのために、自治会として挨拶運動に取り組む。始めの一歩として自分から声掛けをする意識が大切。
- ◆ 階ごとの「班」を生かし、回覧板はポストに入れずに顔を見て渡すことを心掛ける。
- ◆ サークルを多くつくり、コミュニケーションをとる中で自治会へ関心を持ってもらう。



宮城県では、団地外の子供会と一緒に夏祭りを開催したり、高校生のボランティアを受け入れ、団地の高齢者宅の掃除を手伝う取組の紹介がありました。

船戸氏から、「被災地のコミュニティづくりの課題を解消するには、自治会、行政、支援者が協働で動かなければ難しい。行政、支援者、自治会も『私たちごと』として考えるコミュニティづくりを」と話があり、参加者からは、「また来年も集まり交流したい」との声が挙がりました。

## 内陸避難者サロン「サロンにお邪魔 in 滝沢」

平成31年2月28日(木)11時から、花巻市と滝沢市に在住の内陸避難者を対象とした合同サロン『サロンにお邪魔 in 滝沢』(主催:特定非営利活動法人いなほ、共催:滝沢市社協・花巻市社協・岩手県立大学風土熟人R)が開催され、23名が参加しました。

今回は、内陸避難者に県立大学の1日学生体験を味わってもらいたいとの趣旨から、県立大学を会場に開催され、滝沢市・花巻市の枠を超えた避難者同士の交流や、県立大学のボランティア団体「風土熟人R」の学生との交流を楽しみました。

参加者は、菅野道生准教授の模擬授業の受講、学生食堂での昼食、ニュースポーツや手芸のクラブ活動を体験し、終了時には「風土熟人R」の学生から卒業証書を手渡され、学生の気分を満喫した様子でした。

「家に1人いてもなかなか笑うことがない。今日は久しぶりに笑った」、「次回のサロンも楽しみだ」などの声が聞かれ、あちらこちらで笑顔の花が咲いていました。



## 山田町災害公営住宅自治会等交流会 開催

平成31年3月3日(日)、山田町まちなか交流センターで、山田町災害公営住宅自治会等交流会が開催されました。町内6か所の災害公営住宅の行政区長、自治会役員や役員候補者20名と支援者13名が参加して、自分の地域の自治会の現状や困り事、他の自治会に聞きたいことなどをグループごとに話し合い、共有しました。

### 主な話題と山田町地域コミュニティ形成アドバイザー 船戸氏(岩手大学)の助言

- ◆ 孤立死が心配。数日見かけないときは、警察に連絡するようにしている。  
⇒ 普段の生活を知っているから異変に気づくことができる。何か普段と違うと感じたら動くことが大切。10回空振りしても1回のために動くこと。
- ◆ 共益費を払わない人への対応に困っている。  
⇒ どのような理由で共益費を払えないか、聞くことができればよい。様々な意見を聞き、良い方向に変えていくしかない。
- ◆ 行事を開催しても参加者が少ない。  
⇒ 楽しいオーラが必要。役員が楽しいオーラを出すと皆に広がり、参加者も増えるのではないか。

共益費の集金方法や役員の協力体制など、自治会ごとに工夫があり、一人暮らし高齢者の日常生活の変化を見守りしていることも分かりました。

参加者からは、「自分の自治会でも実践してみたい」、「次は行事について情報交換したい」などの感想がありました。船戸氏からは、「他の役員会を見に行くのも良い。暮らしやすい楽しい生活のために、これからも交流していきましょう」との話がありました。

